調査報告書

とき:2011年3月18日
行先:名古屋港管理組合

3 参加者: わしの恵子、山口清明、政務調査補助員(尾関・浜田)

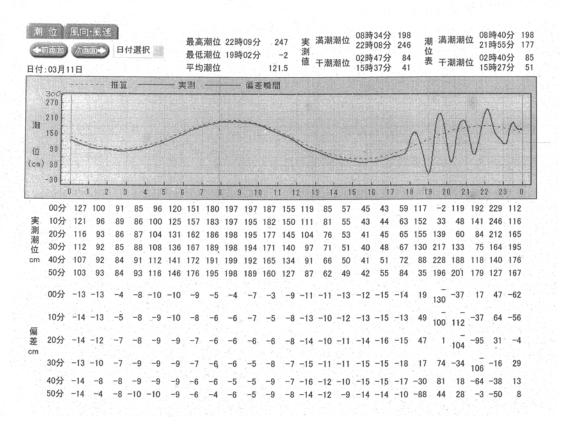
4 主な内容

- ・ 東北沖大地震の際の防潮扉の開閉の実態や住民や労働者への避難指示、堀川 水門の動きなど、市民の安全確保について調査した。
- ・14 時 46 分の地震発生後、直ちに第 1 次非常配置、15 時に第 1 回本部会議。 潮位を見ながら対策を検討。第 3 波を観測した 19 時 35 分に防潮扉の閉鎖を 指示。
- ・ 区役所は 15 時 30 分に対象住民に避難勧告。16 時 35 分にガーデンふ頭で避難勧告放送。
- ・防潮扉 53 カ所中 18 カ所が名管の管理。モニターで監視。常時閉鎖もあり、 22 時 35 分に全扉が閉鎖。この間、民間の都合で開閉される。電話での確認 はある。
- ・住民には避難勧告がされたが、防波堤の外にいる労働者には勧告がなかった。 千鳥地域は防潮扉が閉まったことを前提に避難勧告がされていない。区と名 管のギャップがある。
- ・堀川水門は、3回開け閉めした。引潮の時は構造上水門が開く。30 cmの潮位差で開く。もともと海からの圧力に耐えるように出来ている。10 分で一斉にしまる。23 時 30 分以降は開放にした。開閉を繰り返してゴミや流木が水門に挟まると困るため。通常は昼間しか人がいないが、津波警報が出ればすぐに飛んでいく。船が出入りするので、潮目を見ながら開閉する。監視カメラでは分かりにくい。
- ・中川運河は上流からと下流からの両側に水門があり問題はない。荒子川は名 古屋市の管理。
- ・護岸防波堤は2年に一度点検。月に一回現地から報告、損傷があれば港営部に連絡がある。中川運河は水位を下げると弱くなる。水位がほぼ一定のため、水圧で持っている。護岸は満ち引きがあるのできちんと対応している。護岸に耐震基準はない。逆算方式で、結果的に震度4~5に耐えられるものとみている。重量の2割が水平にかかると見る。

参考図

名古屋港での潮位変化

潮位情報



• 堀川水門

